

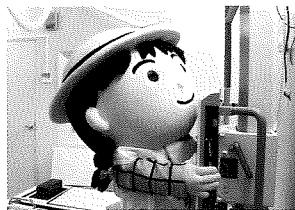


町立病院の機器

X（エックス）線撮影検査とは

X線の透過した部分は黒く、X線を通さない部分は白く映ることを利用した検査です。

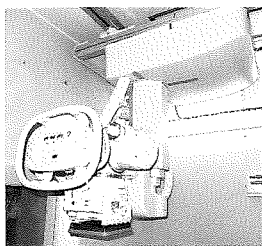
町立病院には、様々なX線撮影機器があります。



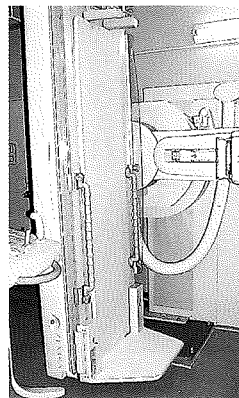
① X線一般撮影装置

風邪などX線撮影を行う際に多く使用し、健康診査や人間ドック等でも使用しています。

肺炎や肺ガン、また腹部（腸閉塞、胆石・腎尿管結石、頭部骨折、脊椎（頸椎・胸椎・腰椎）骨折、骨盤・股関節等の骨折、四肢（腕・脚）の打撲・骨折の診断に利用されています。



② X線テレビ撮影装置



主に外来患者様の健康診査や人間ドック等で胃部撮影に使用しています。普段はしぼんでいる胃（腸）を発泡剤（腸の場合、カテーテルで空気をおしりから送気）で大きく膨らませ、胃（腸）の粘膜の隅々までバリウムを付着させて、見落としのない画像を撮影します。

胃（腸）部の形態に合わせてバリウムをうまく移動させるために様々な姿勢（体位）をとっていただく必要があります。

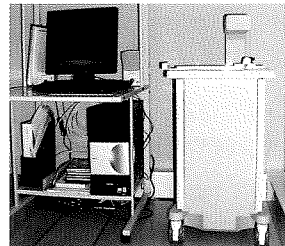
③ 回診用X線撮影装置



病院内での回診の際に入院患者様

（特に移動等が困難）の身体各部のX線撮影を行うことを目的として使用しています。

④ 骨塩量測定装置

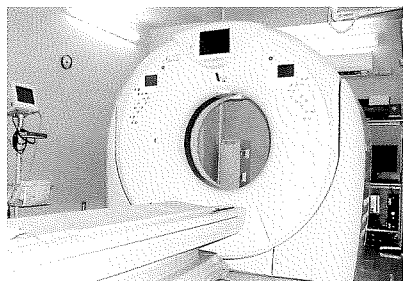


骨粗鬆症の診断や治療の経過観察、腎不全患者様の経過観察など幅広く用いられています。

骨密度検査には、ごく微量のX線を用いる方法と、踵の骨に超音波をあてて検査する方法もあります。

当院は、X線を用いる方法で、骨粗鬆症の場合には、特に骨折リスクが高い腰椎・大腿部付け根（股関節部）・手関節等の骨量を利き腕でない前腕骨にて測定します。

⑤ X線CT撮影装置



コンピュータ断層撮影法のことです。ガントリーという大きな円筒形の機器に寝台ごと入り目的とする部分にX線を照射撮影し、

コンピュータで処理することで身体の断面の画像や内臓・血管・骨などの3D画像が得られます。身体の内側を様々な角度から見ることで、一般撮影装置（①）ではわからない病気を見つけることができます。

がん検診を受けましょう！

- 胃がん検診（30歳～79歳）
- 肺がん検診（40歳以上）
- 大腸がん検診（30歳以上）
- 子宮頸がん検診（20歳以上）
- 乳がん検診（30歳以上）

胃・子宮頸・乳がん検診は2年に1度、肺・大腸がん検診は毎年検診を受けることが推奨されています。（参考「がん予防重点健康教育およびがん検診実施のための指針」）

町では、毎年各種がん検診が受診できます。また、町立病院では、前立腺がん検診や骨粗鬆症検査、CT肺がん検診等も実施しています。

詳しくは、町ホームページをご確認ください。

